

令和7年度

那賀町立鷺敷小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自己実現を図る授業づくりの実践 「徳島版読解力」を生かした確かな学力向上
○教育活動全体を通し、「聴く」・「書く」・「表現」を同時推進

校長

清田 朝美

学力向上推進員

大谷 祐貴

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や管理職による授業参観，教員相互の情報交換等，様々な機会を通じて行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の書き取りや基本的な計算能力は高まりつつある。 ○文章を声に出して繰り返し読む力が身に付いている児童が多く存在する。 ●読書への関心が高まりつつあるが、文章を正確に読み取る力は十分ではない。 ●文章や資料から必要な情報を取り出し、取り出した情報を比較・分類しながら分析したりすることに課題がある。	・文章の読み取りに必要な語彙力を身に付け、内容や主旨、要点をスムーズに把握することができる。 ・文章や資料から必要な情報を適切に取り出し、それらを思考ツールや付箋などを使って比較・分類し、分析することができる。	・新しい言葉に触れる機会を増やすため、読書時間を設定したり、難しい語彙を簡単な言葉で説明したりする活動を取り入れる。 ・読んだ文章を簡潔にまとめる練習を繰り返すことで、主旨や要点を素早く見つける力を育てる。さらに、「一番大切なポイントは何？」と問いかけることで、自分で重要な情報を見極める力を強化する。 ・思考ツールやマインドマップ、表などを使って、必要な情報を見つけて整理したり、比較・分類したりする活動を取り入れる。さらに、分析を行い、1つの結論を導き出す活動を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話型があれば、自分の考えを他者に伝えることができる。 ●根拠を明らかにしながら自分の考えを伝えることに課題がある。 ●主語と述語の関係を意識したり、修飾語を適切に使用したりしながら自分の考えを伝えることに課題がある。	・自分の意見を持ちつつ、多角的な視点から課題やテーマに対して疑問を持ち、それを掘り下げる姿。 ・根拠をもとに適切な結論を導き出す姿。情報を整理して優先順位を考えたり、自分自身の考えの正確さを判断したりする。 ・主語と述語の関係を意識したり、適切な修飾語を使ったりしながら、自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。	・新聞記事や実際の出来事を題材にして、異なる立場や多角的な視点から議論する時間を設け、それぞれの視点の良さや多様性を体感させる。 ・学びの成果やプロセスをふり返る時間を設け、児童自身が「どこがうまくいったのか」、「どこを改善すべきか」、「次はどうすべきか」を考える機会を設ける。 ・文章の作成や対話を通じて、主語や述語、修飾語の使い方を意識させる指導を行う。この際、教員だけでなく、同級生からもフィードバックを受ける機会を設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペアやグループ活動において、自らの考えを伝えることができるようになってきている。 ○体験活動や創作活動、「見る」ことに関連する学習には主体的に取り組むことができている。 ●間違いを恐れて、自らの考えを伝えることを躊躇する児童が一定数存在する。 ●学習に対する姿勢が受動的であり、自ら課題を見つけ、解決していこうとする態度に課題がある。 ●特に「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」に関連する学習の際に、主体的に取り組むことができない児童が一定数存在する。	・難しい課題や失敗に直面してもあきらめず、試行錯誤しながら解決に向けて努力する姿。 ・授業で学んだことや個人的な疑問から自ら学ぶテーマや目的を見つけ出し、進んで探究しようとする姿。また、学びの進捗をふり返り、次の目標を設定し直す姿。 ・ペアやグループでの活動にも積極的に関わり、他者の考えを受け入れたり、他者と意見を共有したりしながら学びを深めていく姿。	・課題を分解して「できそう」と思える目標を設定する。小さな成功体験を積み重ねることで、児童に「できる」という自信を持たせる。失敗も成長の一部とみなし、それを通じて学べる文化をクラス全体で醸成する。 ・プロジェクトベースの学習や自分の好きなテーマ、地域社会に関係するテーマなどを取り上げ、児童が自ら問いを立てたり、調べたりする時間を確保する。その際、学習の過程を記録することで、自分の成長を客観的にふり返ることができるようにする。 ・ペアやグループ活動を通じて、他者と意見を交換したり、互いにサポートし合ったりしながら学びを進める機会を増やす。			